

2024年度 第2回有識者会議 開催概要

開催概要

- 日時: 2025年3月24日(火)
16:00-18:00
- 開催形態: 対面/オンラインのハイブリッド形式
(自治センター 6 階 602会議室)
- 参加者 (敬称略):
 - 【座長】荒井 秀典 (国立長寿医療研究センター)
 - 水野 正明 (名古屋大学)
 - 大高 洋平 (藤田医科大学)
 - 安部 聡 (ボストンコンサルティンググループ)
 - 加藤 浩晃 (デジタルハリウッド大学)
 - 江口 満 (厚生労働省)
 - 柴山 政明 (名古屋大学)
- 次第:
 - 開会
 - はじめに
 - 各事業について
 - 来年度について
 - 閉会

有識者より頂戴したご意見

社会実装先行事業

- 全般として思ったよりも進捗しておらず、いずれの事業も、誰に対してどんなサービスをどう提供するのがまだクリアになっていない。
 - ビジネスモデルとしては、高齢者だけでなく、その家族や、保険外サービス、BtoCなどの可能性も模索するべき。
 - ターゲットの掘り下げが甘く、“高齢者”や“疾患”をより絞っていくべき。
 - 上記を踏まえ、上手い案件のPSF (Problem Solution Fit) は熱狂的なユーザが現れ、お金を払ってくれるのか？という視点で検証を進めるべき。
- このプロジェクトは社会課題の解決と、社会実装の両方を追い求める点にむずかしさがある。
 - 前者については、エビデンスの観点をじっくり検証すべきものもある。
 - とはいえ、公費負担に頼り切りでもいけなく、将来的に自走できるビジネスモデルを考える必要がある。
- 事業を横ぐしで進捗管理をするために、新規事業としての検討事項が網羅されているリーンキャンパスのような共通的なフォーマットで整理する必要があるのでは。

事業共創促進

- いずれの事業も実証が進んだ印象だが、社会実装をゴールとすると、マネタイズの方策について検討を進める必要がある。
 - 既存の競合サービスとの差別化
 - 家族を含めた高齢者本人以外からのマネタイズ

社会実装・共創基盤構築事業

- データ連携のユースケースがないと実際の利活用を進めることはできず、社会課題に対してデータ連携基盤でどのようにアプローチをするかという観点で考えるべき。
- 個人情報については、目的外利用における本人同意がポイントなので、丁寧に議論を進めていくべき。